



「ホームスタート」は、未就学児がいる家庭にボランティア(ホームビジターという)が訪問する家庭訪問型子育て支援です。核家族、希薄な地域のつながり、高齢出産、共働きなど様々な子育て環境の変化で今まで自然にできていた子育ての伝承ができない状況にあります。ホームビジターと一緒に買い物にいたり、子どもを遊びに連れていたり、おしゃべりしたり、特別なことではなくても一緒に過ごすことで孤立し悩んでいるママが元気づけられます。利用者からは「大人と話せて孤独感が解消した。今まで大変だと感じていたことも気にならなくなった」と感想が寄せられています。

子育てにはホームスタートのようなアウトリーチ型の支援が必要で有効です。出かけるまでが大変、ベビーカーで行かれないところがあるなど、ホームビジターがちょっと手伝えれば解決することがいっぱいあるからです。

ホームスタートの主役はなんといってもホームビジターです。現在活動しているのは5名で、訪問依頼があっても対応ができない場合があります。今後も養成講座を開催し、地域の人々に働きかけ増やしていきます。

日本でホームスタートが始まって10年になり、昨年12月には10周年イベントも開催されました。外国籍の人や

多胎児の親など利用者からの報告もあり、ますます必要とされていると実感しました。

子育て応援チームすこっぷがホームスタートの活動を始めて3年になり、利用は順調に増えています。一方、ホームビジターの養成、利用者の意向の聞き取り、利用者とのコーディネート等、運営のために必要な資金は課題のままです。これまで、草の根市民基金・ぐらん、インクルファンド、赤い羽根共同募金、賛助会員の皆様にご支援いただきました。必要とされ誰かがやるべきこととスタートさせた活動ですので、何としても継続しなくてはとの思いでいます。

ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ
岡田佳子



ホームスタート地域説明会

所在地: 世田谷区若林 1-34-4-102 スリーアップ若林 1-34 内
Email: teamskopp@yahoo.co.jp



ホームビジター養成講座

サポーター募集中! あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくらう!

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営およびインクルファンド助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

<会費> 個人 3,600円/年 団体 10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、お申し込みいただくと300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とします。(中止のお申し出がない限り、引き落としは継続されます)

★サポーターになるには、下記の申込書をファックスまたは郵送していただくか、WEBページのお申し込みフォームからご登録ください。URL <https://www.inclusive-gr.com/supporter/>
郵送先: 〒156-0051 世田谷区宮坂 3-13-13 3F 生活クラブ・東京内 インクルーシブ事業連合
ファックス: 03-5426-5203 電話: 03-5426-5207



お名前			
ご住所	〒		
電話番号		メールアドレス	
申し込み口数	個人 () □	・・・1 □	3,600円/年
	団体 () □	・・・1 □	10,000円/年

* ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。



発行: 生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者: 田中のり子 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

インクルーシブ事業連合 2019 福祉ツアー報告 ～シェアキッチンで居場所づくり～

食を通じた地域の拠点づくりをテーマにテンミリオンハウス くるみの木(武蔵野市)、MIDOLINO_(武蔵野市)、okatteにしおぎ(杉並区)の3カ所を見学しました。

■テンミリオンハウス くるみの木(武蔵野市)

テンミリオンハウスは、武蔵野市が地域の人材と建物を有効活用しながら地域での高齢者等の生活を支援するしくみです。運営団体に対し年間1千万円(テンミリオン)を



上限とする補助を行い運営されており、くるみの木はNPO法人ワーカーズどんぐりが2008年より武蔵野市より補助を受けながら運営しています。「地域ぐるみ」「笑顔やあたたかさにくるまれる」の意味をこめて「くるみの木」と名付けられました。

ミニデイサービスでは体操、ヨガ、絵手紙、パッチワーク、健康マージャン、手話ソングなど様々なプログラムが組まれており、手作りの日替わりランチも600円で提供しています。その他にもカフェ事業やミニコンサートなどの企画が行われ、地域の中で元気を持続する高齢者の方々の大切な居場所になっています。

■MIDOLINO_(武蔵野市)

シェアキッチンをベースにした一般社団法人フラットデザインによる創業支援施設です。武蔵野市の「おさしの創業サポート施設開業支援事業」の補助を受けて開業しました。シェアキッチンでは、飲食・菓子・惣菜・ソース類・粉末食品の5つの製造許可をもち、設備整備の初期投資なしで開業に向けての一步を踏み出すことができます。当日は出店していた利用者がつくる美味しいランチをいただくことができ

ました。店内は赤ちゃんを連れてお母さんや若い人たちが賑わっており、商店街の活性化にも繋がっていると感じました。



■okatteにしおぎ(杉並区)

3つの賃貸居住スペース(2階)と共有スペース(1階)から成るokatteにしおぎは、大家さんが相続した家を改築し、地域に開かれた場所をつくりたいという思いからコーディネーターや実際に利用する人たちと何度もワークショップを重ねてきた場所です。会員制となっており、会員みんなで運営している地域のパブリックスペース。共有スペースには広いキッチンや土間、リビングがありみんなでごはんをつくったり食べたり、イベントを開いたり自由に利用できます。当日は大家さんとコーディネーターの方から人集めの手法や運営お話を聞くことができました。



ペレットストーブ、雨水利用、太陽光によるオフグリッドの電力供給などを取り入れ、環境にも配慮した素敵な建物でした。

(インクルーシブ事業連合事務局 藤田彩加)

2019年度第2回インクルファンド助成

今回の応募は以下の2団体。プレゼンテーションは傍聴できます!

- ① 一般社団法人 Calin 昭島: 重症心身障害児(者)支援事業
 - ② 八王子たすけあいワーカーズ バードハウス: 立ち上げ準備費用
- 問い合わせ: ☎03-5426-5207 インクルーシブ事業連合事務局

公開
プレゼンテーション
3/12(木)
14:00~15:00
生活クラブ館
地下スペース

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT) 社会福祉法人悠遊東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京 CPB(コミュニティパーバンク) 認定 NPO 法人市民シンクタンクひとまち社/認定 NPO 法人まちぽっと/環境まちづくり NPO エコメッセ

まちづくりの学校 暮らしに足りないことは自分たちでつくりだそう

インクルーシブ事業連合では、運動グループの活動や事業に関する情報を共有し地域福祉のしくみづくりの活動に生かすために、4つのテーマで出前講座の開催を呼びかけています。2019年12月7日に行われた北東京理事会主催の出前講座は学校仕立てで3講座を実施しました。

1時間目は運動グループの助成制度や融資の制度を紹介する「ファンド説明会」。インクルファンド、認定NPO法人まちぽっとの草の根市民基金ぐらん、NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)のコミュニティ活動応援基金、東京CPBの融資のしくみをそれぞれ紹介し、社会を良くするお金の流れをつくらう！と、活用や寄付を呼びかけました。



2時間目の「市民版地域福祉計画をつくらう」では24時間365日の安心をめざす「市民による市民のための安心ネットワーク構想」について説明するとともに、すでに策定されている地域の市民版地域福祉計画を紹介しました。参加者からは障がいのある子の居場所づくりをしたい、子ども食堂をやりたいと思っているなど、まちづくりへの思いをお聞きすることができました。



3時間目は、あなたのまちに「まちのほっとスペースをつくらう！」。まちのほっとスペースはACTの「安心ネットワーク構想」に基づき、運動グループとともに進めている地域の拠点づくりです。居場所、またスペースを利用してもらうなどの「スペース事業」、困りごとを気軽に相談できる「相談事業」、ちょっとした手助けを行う「ほっとサービス事業」の3つを基本としています。現在活動している11か所の縁がわの取り組みの紹介に参加者も興味深々の様子でした。

それぞれの講座に17人~21人が参加されました。今後の地域での活動につながっていくことを期待したいと思います。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子

インフォメーション♪

ACT 公開講座

いっしょに ゆっくり 幼児期・思春期・青年期

日時:2020年3月25日(水)
会場:生活クラブ館 地下1階スペース
(小田急線 経堂駅より徒歩3分)

講師:児童精神科医 田中 哲さん

子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長
元東京都立小児総合医療センター 副院長

第1部 10:00~12:00 (開場 9:30)

テ

第2部

テ

定員:

受講料

* お子

加費

* 託児:定員4名(0才~2才)要予約 託児料1000円
希望の方はご相談ください。

締切:2020年3月4日(水) 定員になり次第締め切り

お問合せ・お申込み先:

NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)
TEL 03(5302)0393 Fax 03(5302)0394

第3回地域防災訓練 in 悠遊 防災のプロに聞く! —自宅避難のコツ—

日時:2020年3月8日(日)11:00~13:00
(雨天決行) *受付開始:10:30~
場所:社会福祉法人悠遊

西東京市泉町3-15-28

*西武池袋線「保谷駅」より「吉祥寺駅」または「田無駅」行きバスで「荒井竹」下車徒歩2分。西東京消防署の向かいです。



新型コロナウイルスの感染リスク拡大の可能性を受け、中止となりました。

★豚汁や非常食(アルファ米)の試食も行っています。お気軽にいらしてください!

*参加費無料、途中入退場可

お問合せ・お申込み先:

社会福祉法人悠遊 法人事務局
TEL 042-439-6501

インクルーシブ事業連合構成団体の活動紹介 ☆東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

ワーカーズ・コレクティブ課題解決に向けた調査フォーラム 課題解決のための具体的実効策とは ワーカーズ・コレクティブの劇的ビフォーアフター

2019年11月23日、東村山市市民ステーション サンプルネで2年にわたる調査活動の課題解決策の報告と意見交換のフォーラムを開催しました。

東京にワーカーズ・コレクティブが誕生して35年。ここ数年で浮かび上がってきた課題を解決し、ワーカーズ・コレクティブを元気にしていこうと、2018年4月、ACTたすけあいワーカーズ・コレクティブ連合、生活クラブ生協・東京、NPO法人アビリティクラブたすけあい、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合で実行委員会を立ち上げ、「課題抽出に向けた実態調査」を実施しました。2019年は83団体への訪問によるヒアリング調査、メンバー個人へのアンケート調査(1306人)の結果を分析、課題を抽出し、解決策を報告書にまとめました。フォーラムでは4項目(1.継続にむけた組織運営と事業の見直し 2.ワーカーズ・コレクティブを社会に広げる 3.生活クラブ生協との運動と事業の連携 4.運動の推進や課題解決のための体制をつくる)にまとめた課題とその解決策を報告し、法政大学人間環境学部教授・西城戸誠さん、生活クラブ東京専務理事・村上彰一さんにワーカーズ・コレクティブの継続発展に向けたコメントをいただきました。



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合
35周年記念交流会
祝35周年!そして40周年へむけて

調査フォーラムに引き続き、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合35周年記念交流会を、多くの関連団体の方にお集まりいただき開催しました。

ワーカーズ・コレクティブ自慢のオードブルがテーブルに並び、映像によるワーカーズ・コレクティブ紹介、ワーカーズ〇×クイズ、(一社)ぷろぼの工房による劇「3人の協同組合の祖ともう1人」、東京ワーカーズ合唱団による合唱などで、35周年を祝う楽しい時間を過ごすことができました。最後に35周年記念アピールを行い、会を締めくくりました。

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合
理事 金子裕子



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

新宿区歌舞伎町2-19-13

ASKビル5階

連絡先 TEL :03(3207)1941



リサイクル事業で地域に働く場をつくらう! 片付け事業フォーラム報告

1月18日、生活クラブ館にて片付け事業運営協議会(主催)、生活クラブ生協地域福祉政策委員会(共催)による「片付け事業フォーラム・リサイクル事業で地域に働く場をつくらう!」が開催されました。

第一部では、立教大学大学院特任准教授、つくろい東京ファンド代表理事の稲葉剛さん、企業組合あうんの前代表理事である若畑省二さんに講演をしていただきました。



稲葉さんからは、生活困窮者支援の活動をする中で住まいが無くて困っているという声を多く耳にします。そしてハウジングファーストの視点が大切との思いからつくろい東京ファンドで空き家・空き室を活用したシェルターを開設しました。仕事づくりのためのカフェ「潮の路」も2017年に開設。元路上生活者や地域の方が集う居場所になっているとのこと。日本型雇用が崩れた現在の社会ではベーシックニーズ(住宅・食料・医療・教育等)を保障することが重要とお話でした。

若畑さんからは、現在の就労支援制度の問題点や就労が困難な人々を包括して共に働く労働統合型社会的企業の特徴、共同事業体についてお話がありました。現在の就労支援の制度は個人のスキルに問題があり、



訓練を通じて能力をアップすることで就労につなぐという視点で行われていますが、若畑さんはそれに疑問を持ち、その人ができることで仕事をつくることを目指しています。それぞれのリサイクル事業所が連携して広報や研修、ノウハウの共有、等の協力を行う共同事業体をつくる構想について、今後みんなで議論していけたらとのことでした。

第2部では一般社団法人共働事業所よって屋代表の重田さんから事業所の開設から現在に至るまでの活動報告をしていただきました。14年前に社会的事業所を見学し、いつか府中で...という思いを形にされたとのこと。初年度はスタッフみんなで協力しどんな依頼も断らずに引き受けとても忙しかったようです。今後の課題や展望もお話していただきました。

インクルーシブ事業連合 事務局 藤田彩加



→地域ごとの交流会も話が尽きることなく盛り上がりました